

7月27日（日）主日礼拝レジュメ

「世の中は単なる繰り返しなのか」 伝道者の書1章8～11節

9節「昔あったものは、これからもあり、かつて起こったことは、これからも起こる。日の下には新しいものは一つもない」

反論・・・聖書は時代遅れ？今の時代の急速な変化を分かっていた？
例えば、産業革命、車、飛行機、コンピューターの発達からAIへ。電話。

→新しいものが時代の中でどんどん出てきている。

考えるべきことは、なぜ新しいものが次から次から出て来るのかということ。少しでも便利で、快適で、より良い生活を求める心は、いつの時代にも人の欲求としてある。それは決して変らない、

「昔あったものは、これからもあり、かつて起ったことは、これからも起る」人を抑圧し、搾取しながら、一部の人が財をなすということは、いつの時代であっても行われていて、昔あり、現在もあり、将来も起りうる。

⇒飢饉、病、戦争。4節「一つの世代が去り、次の世代が来る。しかし、地はいつまでも変らない」と言われているとおり。

10節「これを見よ。これは新しい」と言われるものがあっても、それは、私たちよりはるか前の時代にすでにあったものだ。

昔の人が想像もしなかった全く新しいものを私たちは見ている。

例：コンピューターなど。しかし、すでにあった何かを改良したり、発展したりさせたものではないか。そう考えると、私たちよりはるか前の時代にすでにあったものだと言えないか？

11節では、前にあったことは記憶に残っていないからだ、すっかり忘れてしまうからだと言う。11節は、人は将来に新しい何か、違った何かを期待してはいけないとのメッセージを与える。過去の人々がなしたことなど忘

れ去られる、まさに3節「日の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になるだろうか」8節「すべてのことは物憂く」ということになる。

聖書の中に「新しい」という言葉が出てくる。どの場合の新しさは、時間的な新しさと同時に質的な新しさ。全く新しく変えられることによって新しくされるという意味。

- ① コリント人への手紙第二5章17節「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

ここで言われている新しさは、まさに（ ）新しさ、神がその人を完全に新しく変えてくださることによる新しさ。全く新しい生き方。

そのように新しくされた人の歩みを、周りの人の記憶には残らなくても、神はしっかりとおぼえてくださっている。ここに空しさからの解放がある。